

千葉市感染症発生動向調査情報

2013年 第24週 (6/10-6/16) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		24週	23週	22週	21週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千 葉 県
		注 意 報	6/10-6/16	6/3-6/9	5/27-6/2	5/20-5/26	6/3-6/9
			24週	23週	22週	21週	23週
小 児 科	RSウイルス感染症		0	2	0	0	16
	咽頭結膜熱	○	11	5	3	2	83
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		56	55	41	35	390
	感染性胃腸炎		108	131	153	168	849
	水痘		11	22	30	14	184
	手足口病	○	19	14	6	4	45
	伝染性紅斑		4	0	1	0	11
	突発性発しん		11	16	15	13	88
	百日咳		0	0	0	0	1
	ヘルパンギーナ		6	2	2	3	29
	流行性耳下腺炎		5	7	3	3	47
	インフル		8	10	12	21	45
眼 科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	1	0	1	17
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	1	0	3
	マイコプラズマ肺炎		0	2	0	0	7
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	2	0	0	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(24件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	臨床診断	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出及び ベロ毒素の確認
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	風しん	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	風しん	男性	30歳代	臨床診断
結核	女性	10歳未満	臨床診断	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	10歳未満	臨床診断	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	10歳未満	画像診断	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	20歳代	病原体等の検出等	風しん	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出等
結核	女性	50歳代	病原体の検出等	風しん	女性	40歳代	臨床診断
結核	女性	90歳代	病原体等の検出	-	-	-	-

・結核12件(104)、腸管出血性大腸菌感染症1件(3)、急性脳炎1件(6)、風しん9件(176)の報告があった。

()内は2013年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第24週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べるとやや多い。
 ＜手足口病＞前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べるとやや多い。

トピック

＜咽頭結膜熱＞

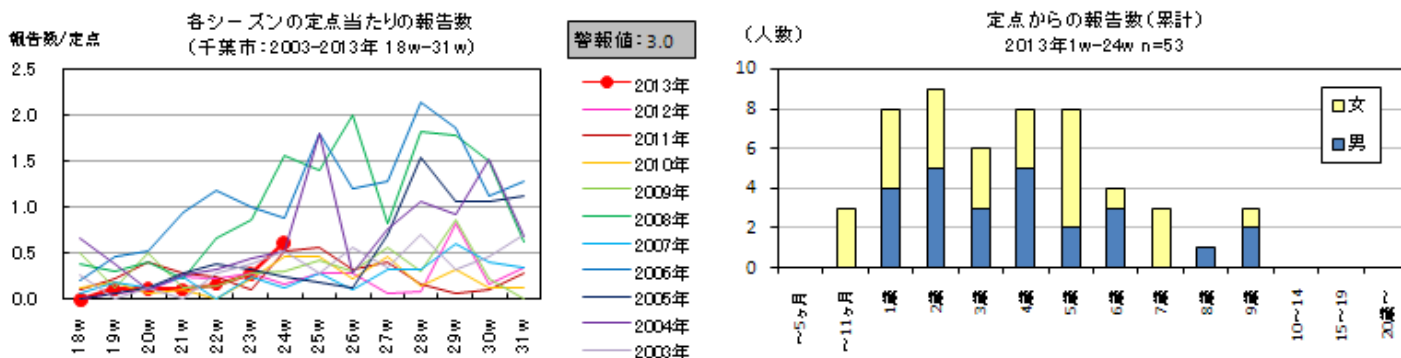
2013年の全国レベルの第23週現在は、過去6年間の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、佐賀県、広島県、福岡県の順に多く発生しています。千葉県は全国レベルより多い状況となっています。千葉市は第22週から連続して増加しており、第24週は前週より増加し0.61となり、過去10年間の同時期と比べるとやや多くなりました。区別の発生状況は、中央区で最多となっており、同区の6か月～11か月で最も多く発生がありました。

咽頭結膜熱は、家族内での飛沫感染、患者とのタオルの共用などによる接触感染や、プールでの集団感染がみられ、プール熱とも呼ばれます。主にアデノウイルスと呼ばれるウイルスが原因で、5～7日の潜伏期後、39℃前後の発熱で発症し、他に全身倦怠感とともに咽頭痛、目の結膜炎が主症状で、嘔吐や下痢を伴うこともあります。

本来季節による特異性がなく年間を通じて発生するものですが、過去の感染症発生動向調査からみると夏期に流行の山がみられます。通常、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成します。

これからプール利用頻度の高くなる季節を迎えるので、予防対策として次のことに留意しましょう。

- タオルなどの共用を避ける。
 - 流水や石けんによる手洗い、うがいの励行。
 - プール利用後、必ずシャワーを使用し、特に洗眼やうがいをする。
 - 患者の便を介しても感染するので、排泄後の手洗いの励行と、おむつ交換などは手袋を使用するとともに後の手洗いが大切。
 - 感染者との接触はできるだけ避ける。
- （学校保健法の指定感染症ですので、登園・登校については医師にご相談ください。）



＜風しん＞

全国で風しん発生報告数が増加しています。全国レベルの第23週の累積発生数は10102となり、過去5年の同時期と比べて約30倍～220倍と非常に多くなっています。また先天性風しん症候群の届出は6例となりました。千葉市でも同様に持続的に増加しており、第24週現在の累積報告数は176件となり、2012年一年間の発生数19件に対し、9倍を上回りました。年齢構成は、5歳代で区切ると10歳代後半から40歳代前半までが多く、特に40歳代前半が全体の20.7%を占め最も多くなっています。全体の82.4%が男性となっています。風しんや先天性風しん症候群の増加傾向は数年持続することが知られています。先天性風しん症候群とは、免疫のない女性が妊娠初期に風しんにかかることによって、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に起こる障害のことで症状は多岐にわたり、それ自体の治療法はありません。予防が重要となります。

予防で重要なことは、予防接種を受けて十分高い抗体価を保有することです。妊婦への感染を抑制するため、風しんの定期予防接種対象者は必ず受けるようにしていただく他、特に妊婦の家族の方や成人男性は予防接種を受けることを是非検討して下さいをお願いします。

